

(3) 第7回都市サミットに関する協議

○全体テーマの趣旨説明

団長の皆様、代表の皆様：

アジア太平洋都市サミットの会員の皆様の中国新疆ウルムチ市に対する信任、並びに2006年の第7回アジア太平洋都市サミットの開催地を中国新疆ウルムチ市としていただきましたことに心より感謝の意を表します。我が市で検討を重ね、またアジア太平洋都市サミットの発起都市であります日本国福岡市の同意を得まして、2006年に中国新疆ウルムチ市で開催されます第7回アジア太平洋都市サミットのテーマを「調和ある都市の発展」に確定させようと考えております。そこで、各会員の皆様にこのテーマについての概要を理解し、共通の認識を持っていただくため、中国新疆ウルムチ市人民政府から、このテーマの意義、テーマの内容について簡単に説明をさせていただくこととなりました。サミットにあたり、各代表の皆様の参考にしていただきたいと思います。

1. 「調和ある都市の発展」提起の意義

東洋西洋の思想史を見てみると、どちらの歴史にも調和思想の芽吹きが現われています。孔子は「君子和而不同（君子は和して同ぜず）」と述べ、ピタゴラスは「あらゆる自然現象は一つの調和である」と論じています。どちらにも「合」、「和」といった思想が見えます。この1100年来、洋の東西を問わず、人々は皆調和のとれた政治、調和のとれた社会という理想社会を追い求めていると言ってもいいのかもしれない。

また、中国で提起された「調和のとれた社会主義社会づくり」という目標は、更に高いレベルで中国の特色ある社会主義を建設していくための戦略を推し進めており、必ずや中国の「調和ある都市の発展」に大きな影響を与えていくものになると思われまます。

「調和ある都市の発展」というテーマの提起は、少なくとも以下にあげるいくつかの意義を有しています。

一つ目は、中心都市が発信機能を発揮し、都市と農村とが調和のとれた構造を築いていくことができるということです。アジア太平洋の会員都市はほとんどが発展した都市です。それぞれ、調和のとれたまちづくりを目標とし、調和のとれたまちづくりを通じて、都市全体の発展を促しています。ウルムチ市についてみると、ウルムチも独特の特徴を備えた都市の一つです。ウルムチ市は都市と農牧区を中に抱える二元社会の構造を有しています。都市の発展には農牧区の発展も考慮しなければなりません。都市住民の収入の向上についても、農牧区の住人の収入の向上に気を配り、農牧区の社会保障システムを確立しなければなりません。都市と農村においては、このようにしてようやく調和のとれた発展を実現していくことができるのです。私はこのような目標は、中国新疆ウルムチ市の都市発展目標であると共に、アジア太平洋都市サミットの会員の皆様に共通した目標であると考えます。

二つ目は、コミュニティーに関して調和のとれた社会構造を築いていくことができるということです。コミュニティーは都市社会を構成する基本的な要素です。ですから、都市が調和ある発展をしていく上では、調和のとれたコミュニティーの発展という点に目を向けていかなければなりません。そして、コミュニティーの調和のとれた発展は、健康、教育、社会保障もろもろの面から着手していかなければ

なりません。特に収入の再分配については合理的な調整とコントロールが必要です。調整を通じて給与や収入の分配について秩序を持たせ、貧困や低収入者層を減らし、中収入者層を増やしていきます。そうすることでようやく更に公正で、調和がとれ、節約もできる、活力あるコミュニティーを作ることができ、都市全体の調和ある発展ということを語る事ができるのです。

三つ目は、男女平等、世代間の橋渡しに役に立つということです。女性と老人の教育、健康、就業、社会保障といった問題に関心を持ち、社会的な矛盾を解消していくことで、女性の社会的地位を向上させ、老人の穏やかな暮らしを保障します。その際、重要なことは、広範囲をカバーし、積み重ね、持続発展していけるような社会保障体制を確立することです。

四つ目は、人と自然の調和的共存に役立つということです。中国の春秋左氏伝に「天人和一（自然と人は一つである）」を追求するとあります。そこには、人と自然が調和しながら発展していくという考え方があります。中国も世界の他の国もすべて、人と自然との調和を非常に重視しているのです。全体の発展目標の上に、「持続可能な発展」、「科学の発展観」や「人を基本」とした「調和ある社会」を建設していくという目標を掲げ、その中に人と自然の調和のとれた発展という要求も盛り込んでいきます。生態バランスは全体の社会を築く上での自然の基礎となります。もしこの基礎が存在しなかったら、我々のどの社会も存在しません。都市発展を考えていく上で、ただ経済成長という側面だけを強調してはいけません。生態環境を保護するという面での指標も加える必要があります。生態バランスをほぼ維持できるようになった後でようやく更なる生産、成長、進歩を続けていくことが可能となります。そして最後には、全人類が共通した文明基礎の上で、高度な調和を作り上げることができるようになるのです。

2. 調和ある都市の発展が内包するもの

調和ある都市の発展は、以下に挙げるいくつかの重要な点を含んでいなければなりません。

まず、都市社会の調和ある発展とは、社会資源を共有するという社会発展であるべきです。どの都市も多民族で構成されています。中国新疆ウルムチ市も多民族、多宗教、多言語、多民俗が共に存在する多元文化社会です。この多元文化が共存する社会において、民族間の文化を共に享受し合うということはその基本的な特徴であります。各民族が仲良く付き合い、各宗教が共存し、各言語同士で交流し合い、各民族、各民俗がさまざまに混じり合いながら一つの都市社会の中に共生している、という文化の共有は、あなたの中に私がいる、私の中にあなたがいる、といった互いに力を合わせる動きを生みます。そしてこれは、都市社会の調和がとれた発展にとって、非常に大きな文化的動力となります。

次に、「調和ある都市の発展」とは都市社会構造が合理的であるという社会発展です。社会構造が合理的であるということは、社会のそれぞれの構成部分及びその下に位置するシステムが一種の合理的な関係を形成しているということです。これには、人口構造、民族構造、階層構造、職業構造、コミュニティー構造、家庭構造等を含んでいます。ウルムチ市委員会や市政府は一貫して計画出産の基本国策を重視し、民族の団結力を高め、住民の再就職のチャンスを増やし、社会の公衆道徳、職業モラル、家庭の美德といったものを高めてきました。そして、一つ一つのシステムの間、比較的バランスがとれ、安定した関係が築けることを目指しており、このような状況においてこそ、社会の管理、社会の整合性、社会のコントロールが有効に機能し、都市社会を調和のとれた発展へと導くことができると考えています。

また、都市社会の調和ある発展には都市の各グループや個人の行為規範が必要です。規範とはおよそ

二つの面を有しています。一つは成文化されているものです。法令、条例、規則、制度、規律、一部分の道徳などで、その中の法は強制力を持ち、どんな党派、団体、個人でもみな守らなければなりません。もう一つは成文化されていないもので、慣習法とも呼ばれています。例えば各民族の風習や一部の道徳などで、強制力はないものの、社会のグループや個人の行為に対して制約を与えます。社会規範は社会をコントロールする上での防火壁のようなものであり、社会発展を安定して支える基礎でもあります。

最後に、調和ある都市の発展には合理的、民主的に決定された政策や適切な戦略が必要とされます。中国共産党党员 16 大報告の中で「正確に政策を決定していくことは各種の業務を成功に導くための重要な前提となる。民衆の気持ちを深く理解し、民意を十分に反映させ、民衆の知識を広く集結し、実情に適し民力を大切にされた政策決定メカニズムを完備させ、政策決定の合理化、民主化を推し進めなければならない。各級の政策決定機関は重大な政策決定のルールとプログラムを整え、社会情勢と民意を反映させた制度を確立し、社会公示制度や社会公聴制度、専門家の諮問制度の完備、政策決定の論証制や責任制の実行、あいまいな政策決定の防止といった組織利益と密接に関連する重大な事項を確立させなければならない。」と指摘されています。都市社会の調和ある発展は政策決定者の合理的、民主的な政策決定に大きく依存しているのです。合理的、民主的に政策を決定する際には、当然計画が適切かどうかという問題もあります。仮に優れた社会計画がなかったとしたら、調和ある発展は依然として難しいままでしょう。公開、公平、公正という社会のメカニズムを確立するために、とても重要な点は、合理的、民主的な政策決定と適切な社会計画なのです。

3. 調和ある都市の発展において注意しなければならないいくつかの問題

いくつかの意見を通して、参加者の参考にしていただきたいと思います。

(1) 都市の階層構造はどのようなモデルで発展していくべきか。専門家が指摘するところによれば、都市社会の基層部は、真ん中が小さく両端が大きい「ダンベル型」の発展ではいけない。真ん中が大きく両端が小さい「オリーブ型」でなければならない。現在の問題は、いかに真ん中が小さく両端が大きいという問題を解決し、中間層の規模を拡大していくかということであり、この社会構造を調和のとれた安定したものにしていくかということである。

(2) 社会的弱者グループにどのようにして適切な助けを差し伸べることができるか。都市の中での貧困層、出稼ぎ労働者、失業者、障害者、災害の被災者等は皆社会的な弱者グループである。彼らは病気、就学、就職、裁判など様々な問題において不利益を被りがちである。どのようにしてこのような問題を解決していくのか。これらは政府の議事日程に組み込み、有効な手段を用いて解決していかなければならない。

(3) 経済と文化が相互に発展していくことが前提となる必要はないのか。もし、経済発展だけを強調し、文化発展を軽んじれば、都市住民の文化的素養が向上することもなく、文化事業への投資も増大せず、都市全体の文化水準も上がることはない。そうすると、経済発展すら勢いを失ってしまい、都市を調和ある発展の軌道に乗せることはできなくなる。

(4) 都市の調和ある発展にはハードウェアが必要なのか。ここで言うハードウェアとは大規模な建築

物をいくつ建てるかということではなく、社会事業に対する投資を指す。コペンハーゲン会議によると、この分野への投資は総投資の30%以上を確保しなければならないのである。今の問題は、我々はこの分野にどのくらい投資をしなければならないのか。如何にしてこの分野への投資を増やし、社会事業を有効な発展へと結びつけていくのか。これらは全て都市社会の調和ある発展に関して大きな問題である。

もちろん、社会的な公共政策を制定したり、貧富の差を縮めたり、民主選挙などといったことは、都市の調和ある発展において大切なポイントです。鍵となるのは、我々が如何に全体を見据えて計画をたて、協調しながら発展していくのかということです。

○分科会テーマの案

第7回アジア太平洋都市サミットのテーマは「調和ある都市の発展」です。これにもとづいて「都市サミット」の分科会のテーマの案を提出いたします。出席者の皆様のご審議をお願いいたします。

1 社会福祉について

社会及び経済の発展に伴って、「アジア太平洋都市サミット」において議論される分野の範囲も広がってきました。高齢者福祉、障害者福祉また児童の保育などについて、各都市の経験を分かち合うことが急務となっています。

2 都市インフラの建設について

都市人口の急速な増加に伴い、都市インフラの建設、例えば道路の建設、上下水道網の建設、居住条件の改善のための住宅建設などは、ますます不可欠な課題となっています。会員都市間で、それぞれの都市の地理的、社会的、経済的条件の下で、人口増加の問題にどう対応していくのかを互いに学びあうことが重要であり、それが我々の都市インフラの建設の発展に役立つと考えられます。

3 新産業の開発

世界の経済的な一体化が急速に進展していることにより、企業などの経済主体間の競争が日々激化しています。各会員都市がどのような新産業を促進させているかを理解し、学習しあうことは、その都市のさらなる発展のために、積極的な役割を果たすと考えられます。

○意見交換

福岡市：福岡市です。今、ウルムチ市の方から来年のサミットの分科会のテーマ、テーマの主旨とそれから分科会の3つの議題が提出されましたが、福岡市としましては基本的にこの3つの分科会のテーマでよろしいのではないかと考えております。

特に1番目の福祉につきましては過去のサミットでも取り上げられてないテーマであり、調和ある発展のためには、ハードの整備や経済のみならず、その一方で福祉施策というものが非常に重要な課題になると考えております。

2番目のインフラの建設、それから3番目の新しい産業の促進、これらも調和ある都市の発展にふさわしい分科会のテーマであると福岡市は考えています。

宮崎市：宮崎から参りました。基本的には賛成をしております。

ここで2つのことをお願いしたいと思います。まず一つは福祉の、分科会テーマの1番における社会福祉事業に関することです。ここにはできれば、福祉につきまして地域のコミュニティー、これがどのように関わっているかということも含めて議論をしていただければと思います。

日本の中央政府と地方政府の借金は900兆円あると言われております。これは国民一人あたり約750万円、約60万元です。これは福祉や医療などの負担、社会保障費などの歳出が伸び続け借金を続けていったことが背景になっています。日本の地方政府は宮崎市も含めて、この厳しい財政状況の中、行財政改革に取り組んで健全な財政運営に努めています。

ですから、福祉のことに関しても行政だけでは限界があります。これから、ますます互いに支え合う仕組みが必要になると思います。行政が出来ること、市の政府が出来ることと地域の皆さんが出来ること、それぞれ国の制度は違うと思いますけれども、そのような制度の違いに関わらず、福祉に関して、どういう団体が福祉をやって、行政がどういうふうな手伝いをしているという点も含めて議論ができれば、有益な議論になると思います。

もう一つお願いしたいと思います。2番目の都市インフラの建設の件です。先ほどの説明の中で、人口の問題に対応して解決策を互いに学びあいましょう、という話がありました。ところが日本の人口は、今現在1億2700万です。これが2006年をピークに人口減少時代に入るといわれております。すでに報道では減少に転じたというようなことも言われております。厚生労働省の国立社会保障研究所の調査では2000年の人口を100としたとき30年後、今から25年後ですね、2030年における人口は全国の92.6パーセントに減少します。30年後に人口が減る市区町村、地方政府は87パーセントに上ります。そういう意味では日本においても都市と都市との競争はすでに始まっております。

人口は都市の活力を維持するために絶対必要なものです。そういうことで人口を増やすようなまちづくりに取り組んでいるわけです。ウルムチ市も中国の地方政府間の競争の中で日々奮闘されていることだと思います。そういう意味では人口だけの問題ではなくて国の制度は違うけれども、都市間競争の中でどう生き抜いていくか、どう都市の力を発揮していくかを常に意識していくものと思われまます。インフラの整備もその一つだと思います。そういう意味では各国の地方政府間の競争の実情と、その対応策についても言及していただけるような議論ができると中身が深まるものと思います。基本的にはすべて賛成です。ありがとうございました。

鹿児島市：鹿児島市です。3つの分科会のテーマということで、基本的に私どもは大賛成です。福祉については、先ほど福岡市さんにもいわれたように新しいテーマということで、これは皆さんに共通する課題だと思っておりますので、これについてもいろいろ意見を聞ければと思っております。それからインフラにつきましては日本の、私どもサミットの九州の各都市は多分インフラ的には進んでいると思えます。特に上水道と下水道、中でも下水道は九州の各都市は普及しておりますので、そういう点では皆様の参考にしていただいているのではないかと考えております。

最後の新産業の導入ということですが、実は私ども工業団地などを抱えていますが、ITについては日本、韓国、中国は相当進んでいると思えますけれど、私ども鹿児島市としては中国の外資導入のシステム、そこをぜひ知りたいと考えています。中国が現在発展していて、その基礎になっている、外資導入、特に経済開発区、そのあたりで外資が相当出てきていると思っております。それは日本企業も一緒だと思うんですけど、私どもそういうふうなシステム、この都市も含めて、中国の方々がどういうふうにして外資を導入しているか、それを学びたいと思っております。

そういうことで、お互いにサミットの都市がお互いに興味のある、お互いに学びたいことを、このサミット場で、市長がいる中で、そういうところを学ばせていただければと思えます。

ありがとうございました。

バンコク市：私、バンコクの代表は、この3つのテーマについて基本的に賛成です。ただ社会福祉事業については非常に範囲が広いと思えます。

私の考え方からすると、2番目のインフラの発展と、それから新産業の促進というのがあって、初めて1番目の社会福祉事業をするための基礎ができると思えますので、この分科会のテーマは1をインフラ、2を新産業、そして3番目に社会福祉事業、その結果としての社会福祉事業という風にもってきたらどうでしょうか。

私としてはこの3つはピラミッドのようなもので、一番基礎にあるのがインフラ、そしてまた新産業というのがあって、その上の、ピラミッドの一番上に社会福祉事業があると。ピラミッドの基礎がなければ社会福祉事業までたどり着けないと思えます。

各会員都市は、まずインフラをどのように建設、発展させるかと、そして新しい産業を発展させるかということがあって、初めて福祉事業について話ができると思えます。

以上です。

上海市：私は上海市の外事弁公室から参りました。この外事弁公室というのはいろんな国際会議のお膳立てをしたり、条件をつくったり、コーディネイトをする部門です。

私たち上海市は非常に会議が多い、参加しなければならない会議が非常に多いです。ですからうちの市長も毎年非常に沢山の会議に参加してくれという招待状をもらいます。ですから、都市間サミットだけで、今年だけでも8つの都市間サミットから招待状をもらいました。今年だけでも8つのうち、中国の対外友好協会のもの、ブラジルでのもの、それからアメリカでのもの、そしてこれからまだ終わっていないものに4つの会議があります。

中国のなかでも、このウルムチが終われば次に重慶の会議があります。それから長春でも行います。ですからこういうサミットのお招きを受けたときに、まず私ども外事弁公室として考えるのは、市長が出るか出ないかということです。市長が出るか出ないかというのは、私たち外事弁公室がそれを市長に

意見として出すということになります。

市長が一年にこんなに沢山のサミットからの招待を受けますので、どの会議にも市長が出るということは実際上困難です。

市長が参加するかどうかについて、私たち外事弁公室が市長に上げるときにまず考えるのは、そのサミットの規模、影響力、それからどういう人たちが参加するのかというサミットのクラスです。

どのサミットも都市建設に有意義なサミットであると思います。市長が出席するサミットについては、テーマができるだけ違うサミットに出席してほしいと思います。あまりテーマが同じようなサミットに何回も出席するわけにはいかないからです。そしてサミットのテーマが共通性のあるもの、いろんな都市に共通性のあるものであることを希望しています。

私は提案があります。私はこのアジア太平洋都市サミットですけれど、いろいろな都市サミットのなかのどのランクに位置するのかということについてですが、このアジア太平洋というのは非常に特色あると思っております。よくほかのサミットは非常に広い範囲の名前を頭に掲げていますけれども、このサミットは、アジア太平洋という非常に特徴のある名前です。

私としては非常に大きな大都市の市長さんの集まりではなくて、中クラスの市の集まりのような形で、中国のもっとたくさんの都市の市長さんが参加できるようにしてはどうかと思います。そうすれば参加都市が多くなり、このサミットの規模というものが、ある程度保障されるのではないのでしょうか。そしてある程度の規模ができあがれば、またこのサミットの持つ影響力というのが大きくなると思います。

私個人としては、今ウルムチの方から提案されました3つの分科会のテーマについては賛成いたします。それから日本の方たちがおっしゃった福祉に関するテーマへの賛成についても、私は全く同感です。私は自分の意見を比較的正直に申し上げました。

私たち上海ではもう高齢化社会に突入しております。老人人口は20パーセントを超えました。5分の1を超えました。ですから、これからますます高齢化社会が進むと思います。今まで20回くらいにわたって福祉関係のいろんな会議を開いてきております。特にここ2年ほど老人の問題、高齢者の問題、身体障害者の問題について上海市は非常に関心を持っています。ですから私は分科会でこの社会福祉事業について、皆様方の代表と話し合うことについて私自身としては非常に楽しみにしています。

来年どの時期に開かれるのかということにも興味、関心を持っているわけです。それから準備期間としてやはり1年間の準備期間が必要だと、私たちの常識から言うと、1年間の準備期間があれば会議の質というのが保たれると思います。

ありがとうございました。

(4) 閉会式

閉会あいさつ ウルムチ市副秘書長 遲維成

参加者の皆様方、こんにちは

「アジア太平洋都市サミット・第6回実務者会議」は参加各国各都市の代表の努力によって、予定の議事内容を滞りなく終えることができました。今回の会議が順調に行われたのは、参加各都市の積極的な参与と切り離すことができません。

特に日本国福岡市は今回の会議の成功のために関係各方面と連絡し、積極的に計画を立て、今回の会議が予定通り開催されるよう後押しをして下さいました。

今回の会議には、タイのバンコク、日本の福岡、北九州、鹿児島、熊本、宮崎、中国の上海、広州、ウルムチというアジア太平洋都市サミットの会員都市から3カ国、9都市が参加いたしました。

今回の会議は、各会員都市が「多元的文化による都市の発展」というテーマを巡って広く検討を行いました。タイのバンコクは「バンコク市における多元的文化を通じての都市の発展」というテーマで、日本の福岡市は「文化芸術による都市創造」、広州市は「多元的文化システムを構築し、都市の発展を促進する」という題目でそれぞれ講演をおこないました。中国新疆のウルムチ市は「都市発展の文化における多元的部分」という基調講演を行い、「第7回アジア太平洋都市サミット」のテーマ「調和ある都市の発展」について説明をおこないました。

参加各都市は会議のテーマと関連して内容豊富な、思想性の高いすばらしい発言をしました。アジア太平洋地域と都市の多元的文化の交流と発展のために、また「第7回アジア太平洋都市サミット」のためにより基礎を造りました。また、アジア太平洋都市の共同の繁栄と発展、及び広範な領域における協力の可能性を開拓しました。

今回の会議の収穫は主として、3点あります。まず、アジア太平洋都市間の協力と発展を、経済や都市管理・都市インフラの面から、都市の多元的文化にまで引き上げ、アジア太平洋都市間の協力と交流の領域をさらに広げました。アジア太平洋都市の発展における多元的文化の位置づけをこの場でを行い、アジア太平洋都市の文化交流について、大方の認識を一致させることができました。

次に、今回の会議が順調に行われたことは、アジア太平洋都市サミット会員都市間の情報交換と友好交流を強化しました。特に中国のウルムチ、タイのバンコク、日本の福岡、中国の広州の講演は「多元的文化による都市の発展」というテーマに合っただけでなく、アジア太平洋都市間の多元的文化交流に建設的な意義を持つ情報を提供してくれました。

三つ目は、今回の会議の幅広い討論と友好的な協議によって、「第7回アジア太平洋都市サミット」の「調和ある都市の発展」というテーマと分科会のテーマを決定したことです。これは第7回アジア太平洋サミットの準備を行ううえで大変意義深いことです。

2006年第7回アジア太平洋サミットは中国新疆のウルムチで行います。アジア太平洋サミットの事務局である日本国福岡市の同意の下に、テーマは「調和ある都市の発展」と決定いたします。私たちは全力を挙げてこの会議の準備をおこない、各代表のために協力的な環境を作り、リラックスした雰囲気を作り出すように致します。

会員各都市とその他のアジア太平洋各都市が積極的に会議に参加され、「調和ある都市の発展」とい

うテーマに基づいて積極的に発言されるよう希望しております。ぜひご出席ください。

私たちは、今回の実務者会議を契機として、アジア太平洋都市サミット会員都市と地域間の友情をさらに深め、各方面各領域の共同の発展を促進するよう心から希望しています。

2006年第7回アジア太平洋都市サミットの成功のために協力し、ともに手を携えて進みましょう。

ご静聴、ありがとうございました。